

サービス名/オフィス・イノベーションモデル

Case Study

津島市民病院 様

既存の音声システムとデータネットワークを活用し、
シームレスなコミュニケーション環境を低コスト・
短期間で実現

業種	総合病院
ソリューション	オフィス・イノベーションモデル「マイグレーションモデル」、無線LANデュアル端末連携モデル
製品	FOMA [®] デュアル端末、SIPサーバ (IP Pathfinder)、無線アクセスポイント (AP208) など
規模	FOMA75台、アクセスポイント120台
構築期間	約3ヶ月

既存のシステムを利用しながら段階的にIP電話を導入できるマイグレーションモデルにより、初期コストおよび稼働までの期間を抑えることができました。また、1台で内線電話・携帯電話の2役をこなす無線LANデュアル端末の活用により、院内スタッフ間のコミュニケーションがさらに充実しました。

課題

ポケットベルに代わる、院外にいる医師への連絡手段を導入したい。

医師へのシームレスなコミュニケーション環境の構築を、低コストかつ短期間で実現したい。

効果

1台で内線電話・携帯電話の2役をこなす「無線LANデュアル端末連携モデル」を導入。コールバックを待つポケットベルとは違い、状況を直接伝達し、指示を仰げるようになった。

既存の音声システムを活用してSIP対応IP電話を部門単位で導入できる「マイグレーションモデル」、および既存のオーダーリングシステムのデータネットワークを利用することにより、医師へのシームレスな通信手段の構築が低コストかつ短期間で実現できた。



津島市民病院
院長
(兼看護専門学校長)
松崎 安孝 氏



津島市民病院
診療局長
(兼外科部長兼手術部長)
神谷 里明 氏



津島市民病院
事務局医事課
情報管理グループ統括主任
伊藤 邦彦 氏



津島市民病院
看護局看護師
仲尾 麻美 氏

導入の背景

スタッフ間のコミュニケーション充実のため、通信手段の革新を図る

津島市周辺の地域住民の健康を支える津島市民病院様では、「心かよう医療を」の基本理念のもと、「正しく確実な診断をし」「安全で効率的な治療を行い」「良い結果を得る」ことを目指し、日々の診療や治療を行っています。1997年から2006年にかけて実施した病院全体の増改築に伴い、新しい診療科や施設の増設、中部地区初の定位放射線治療機器(サイバーナイフ)導入、病床数の増床といった改革も進行。それに合わせて医師や医療スタッフも増員しました。

津島市民病院様では以前、医師は内線用PHSと院外連絡用クイックキャスト(旧ポケットベル)の2つを利用していました。しかし、重要な通信手段であったクイックキャストのサービスが、2007年3月で停止されることになったため、それに代わる院外の医師への通信手段の確保が急務となりました。

「患者様、地域住民の方々、そして医療スタッフ同士の間で心が通いあうためには、コミュニケーションが最も重要だと考えています。スタッフを増やしてチーム医療を進めれば、重要性はさらに高まります。そのコミュニケーションの充実に必要なのが、通信という手段です。我々は、クイックキャストのサービス停止を機会に、新しい通信手段への革新を行うべき時期が来たのだと判断しました。」(松崎氏)

津島市民病院様では2006年1月に、既存の電話環境を利用しながらSIP対応IP電話を部門単位で段階的に導入できる「マイグレーションモデル」と、1台のFOMA[®]デュアル端末が内線電話・携帯電話の2役をこなす「無線LANデュアル端末連携モデル」の導入を決定しました。

システムの概要

既存の音声システムとデータネットワークを活用し、シームレスなコミュニケーション環境を低コスト・短期間で構築

「マイグレーションモデル」は、既存の環境を利用してIP電話システムを低コスト・短期間で導入できるのが特長です。津島市民病院様では、診療内容や検査結果などの伝達を目的として、すでに富士通のオーダーリングシステムが導入されており、ネットワークは構築済みでした。既存の音声システムを活用し、さらにネットワークに音声データを統合して、無線LANデュアル端末を導入するという形で、医師へのシームレスなコミュニケーション環境を構築しました。

「コミュニケーション環境を全く新規に構築すると、機器の設置工事等の難易度が非常に高くなります。しかしマイグレーションモデルなら、既存の音声システムやオーダーリングシステムのデータネットワークが活用できるため、機器の新規導入や工事が少なくて済みます。初期コストが抑えられ、稼働までの期間が短縮できることが富士通の優位性でした。」(伊藤氏)

「無線LANデュアル端末連携モデル」は、医療機器への影響が少ないと実証されているFOMA[®]デュアル端末を、院内では内線電話、院外では携帯電話として使用できるIP電話システムです。コールバックを待つクイックキャストとは違い、院外にいる医師に状況を直接伝達して指示を仰げるため、患者様への対応が速さと質の両面で向上しました。

「富士通を選んだ理由の1つは、医療機器メーカーなどとの連携について十分なノウハウがあったことですね。連携が取れていれば、システムの構築も稼働も早く、稼働後の安定性も良い。患者様の生命に関わることです。安定性は特に重視しました。」(伊藤氏)

導入の効果

医師と現場スタッフ間の確実な情報伝達が、患者様への対応の質を向上させる

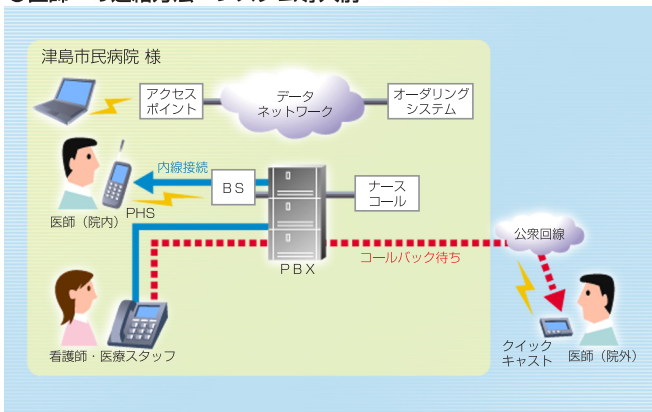
今回のシステムの導入・運用に関して、現場の声を伺いました。まず、連絡を受ける医師の感想です。

「医師は元々、24時間365日フル待機の職業です。いつでも呼び出される可能性がある、というのは別にストレスにはなりません。逆に、すぐに連絡が取れないほうがストレスになりますね。たとえ離れた場所にも、現場にいる看護師や技師、同僚の医師からの連絡が、迅速かつ正確に受けられること、すぐに的確な指示を出せること、これが重要です。特に、重症の患者様を受け持っているときなどは痛感します。以前はスタッフが外出先の医師と連絡を取る場合、クイックキャストに連絡してコールバックを待っていました。しかしこれは、本来なら患者の処置や対応に割かなければならない時間を、医師との連絡に割いていることとなります。本システムは、スタッフのそういった負担を軽減し、患者ケアにより力を注ぐために一役買っているのではないかと思います。」(神谷氏)

では、医師に連絡をするスタッフ側の評価はどうか。看護師の方に感想を伺いました。

「クイックキャストでは、医師に本当に連絡がついたかどうかはコールバックがあるまでわかりません。ですから、それを待つ間が不安でした。しかし、このシステムになってからは、電話に出てもらえばすぐに情報を伝えられる、もし出なければすぐに他の連絡手段を考える、というように状況がはっきり分かります。連絡待ちの不安が解消されたことで、我々のストレスも軽減されました。また、主治医からの直接の指示をすぐに仰げるということは、よりの確な対処を、ただちに行えるということですから、何よりも患者様のために良いことだと感じています。」(仲尾氏)

●医師への連絡方法：システム導入前



将来の展望

遠隔診断システムの実現に期待大

津島市民病院様では、音声以外の情報伝達についても本システムが活用できたらと期待を寄せています。

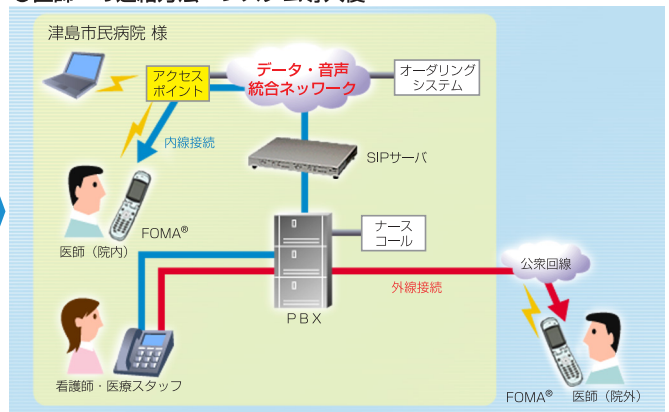
「最も期待しているのは画像情報のやりとりです。たとえば、研修医が専門医に心電図やレントゲンなどの画像を送って意見を求める、といった使いかたができれば新人教育にも役立ちます。新人医師にとっても、いつでも先輩に相談できる環境があれば安心だと思います。もちろん、携帯電話の画質が、確実な診断に足りるまでに向上することが条件ですが。画像のやり取りを自発的に試みている医師グループもあるくらいですから、現場の期待はかなり高いようです。」(松崎氏)

また、地域医療の発展という面では、本システムのベースとなっている「ネットワーク」と、患者様の情報が一元管理される「電子カルテシステム」の連携も期待されています。地域内の各病院で、電子カルテシステムおよび他病院とのネットワーク化が導入されれば、患者様が旅行先などでかかりつけ医以外の病院にかかっても、今までの検査結果や治療記録がすぐに参照できます。当然、カルテのデータは患者様の個人情報であるため、万全のセキュリティ対策が要求されます。

「これからの病院にとって、地域医療連携の強化は大きな社会的課題であり使命です。地域内での行政・大学・病院間のコミュニケーションや情報共有が不可欠であり、それを支えるのが通信環境やネットワーク環境です。そのためにも、富士通にはより優れたシステムを、より低コストで提供していただきたいですね。」(松崎氏)

患者様の健康を守るために努力し続けている津島市民病院様を、情報インフラという面で支えるために、富士通では今後も努力してまいります。

●医師への連絡方法：システム導入後



お客様概要

津島市民病院 様

- 所在地：〒496-8537 愛知県津島市橘町3丁目73番地
- 院長：松崎 安孝
- 設立：昭和18年7月（町立病院として設立）

- 病床数：許可440床（一般病床）
- 診療科目：19診療科
- ホームページ：<http://www.tsushimacity-hp.jp>

●記載の会社名、製品名、名称等の固有名称は各社の商標または登録商標です。

●その他、本カタログに記載されている名称には必ずしも商標表示をしておりません。●このカタログは、100%再生紙および石油系溶剤比率15%以下のインキを使用しています。

富士通株式会社

サービスビジネス本部 ネットワークビジネス推進統括部 ネットワークサービス推進部

〒144-8588 東京都大田区新蒲田1-17-25（富士通ソリューションスクエア） TEL03-6424-6266 FAX03-6424-6451
<http://fenics.fujitsu.com/networksolution/oim/>